

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

習近平中国国家副主席の北朝鮮訪問

2008年6月17～19日、同年3月に中国の国家副主席に任命された習近平氏が平壤を訪問し、金正日総書記や金永南最高人民会議常務委員会委員長、楊亨燮同副委員長らと面会・会談した。

中国の『人民網』によれば、17日、習近平氏は、楊亨燮氏との会談で、実務的協力を深め、双方が利益を得られるようにすること、農業、軽工業、情報産業、科学技術、物流、国境地方のインフラ建設等の領域での協力、中国側が実力があり、信用がある企業の対北朝鮮投資を支持すること、国境の通過点の建設を強化して、ヒトとモノの流れをよくすることなどについて言及した。また、両氏は中期間の品質検査、運輸、民間航空等の領域における二国間協力に関する文書の署名式に出席した。

北朝鮮とラオス間に民事・刑事事件での相互法律上援助提供に関する条約調印

2008年6月30日発『朝鮮中央通信』によると、北朝鮮とラオス間に民事・刑事事件での相互法律上援助提供に関する条約の調印式がビエンチャンで行われ、両国関係者によって調印された。

朝口間の鉄道賃貸契約が締結

『朝鮮新報』によれば、2008年8月6日、北朝鮮の鉄道省代表団とロシア鉄道株式会社代表団との会談が平壤で行われ、羅先国際コンテナ輸送合弁会社と北朝鮮・鉄道省東海鉄道輸送会社間の羅津 - 豆満江鉄道賃貸契約書が締結された。また、羅津 - 豆満江の鉄道改修と羅津港コンテナ埠頭建設起工式を行うことで合意した。会談には、北朝鮮側から金哲鉄道次官、関係者が、ロシア側からアレクセイ・メルシヤノフ副総社長を団長とするロシア鉄道株式会社代表団、アレクサンドル・マチェゴラ駐朝ロシア臨時代理大使が参加した。この会談に先立ち双方は、羅先国際コンテナ輸送合弁会社の理事会を構成し、第1回会議を開いた。会議では理事会メンバーが選出され社長が任命された。

羅津 - 豆満江鉄道と羅津港の改修に関連した朝口両国鉄道機関間の協力に関する協定と羅津港合弁契約は、同年4月にすでにモスクワにて締結されており、ロシア鉄道による羅津港の使用に関する契約手続はこれですべて完了し、実行段階に移行した。

日朝実務者協議

2008年8月11日～12日、中国・瀋陽で齋木アジア大洋州局長と宋日昊外務省朝日会談担当大使が会い、日朝実務者協議が行われた。

今回の協議では、拉致問題の再調査について議論が行われ、拉致問題の解決に向けた具体的行動をとるため、すなわち生存者を発見し帰国させるための、拉致被害者に関する全面的な調査となること、調査の対象には、政府が認定した被害者やその他に提起された行方不明者等が含まれること、調査は、権限が与えられた北朝鮮の調査委員会によって迅速に行われ、可能な限り秋には終了すること、

北朝鮮側は、調査の進捗過程について日本側に随時通報し、協議を行う。調査の過程で生存者が発見される場合には、日本側に伝達され、その後の段取りについては、日本側と協議し、合意されること、北朝鮮側は、日本側が関係者との面談、関係資料の共有、関係場所への訪問などを通じて調査結果を直接確認できるよう協力すること、が合意された。

日本側は北朝鮮側が今後、拉致の再調査を開始することと同時に、人的往来の規制解除および航空チャーター便の規制解除を実施する用意がある旨表明した。6月の日朝実務者協議で双方が表明した措置のうち、「よど号」関係者の問題解決のための協力、人道支援助物資輸送目的の北朝鮮籍船舶の入港については、今後改めて協議することとなった。

ラオス首相の北朝鮮訪問

『朝鮮新報』によると、2008年8月30日～9月2日、ラオスのブアソン・ブパワン首相が北朝鮮を訪問した。8月30日、金英逸総理とブアソン首相との会談が万寿台議事堂で行われ、双方は両国間の親善・協力関係をいっそう発展させることと共通の関心事となる問題について意見を交換した。

また同日、両政府間の経済、貿易、科学・技術協力共同委員会創設に関する協定が万寿台議事堂で調印された。なお、上で述べた民事・刑事事件での相互法律上援助提供に関する条約のほか、本年6月には朝鮮公報委員会とラオス公報および文化省間の共同公報委員会構成に関する合意書が調印され、同月、朱相成人民保安相を団長とする人民保安省代表団もラオスを訪問している。

（ERINA調査研究部研究主任 三村光弘）